

ゾスパタ[®]を服用される方へ

監修 長崎大学病院 血液内科 教授 宮崎 泰司 先生

ゾスパタ[®]を服用される方へ

監修 長崎大学病院 血液内科 教授 宮崎 泰司 先生

監修者の所属・役職は2025年2月時点の情報です

ゾスパタ[®]とは

ゾスパタ[®]は、FLT3 遺伝子に変異がある急性骨髄性白血病 (AML) の治療薬です

ゾスパタ[®]の服用方法

1日1回、同じ時間帯に、処方された1日量の錠数をPTPシートから取り出し、コップ1杯程度の水やぬるま湯で服用してください



服用中の注意事項

服用の変更や中止

- ご自身の判断で、服用を止めたり、服用量を変更しないでください

服用を忘れてしまったとき

- 決して2回分を1度に服用しないでください
- 気づいたときに1回分を服用してください。ただし、気づいたときが次の服用時間に近い場合は、その分は服用せず、普段服用している時間帯に、1回分を服用してください

他のお薬の服用

ゾスパタ[®]治療中に他のお薬やサプリメントを服用することにより、どちらかの効果が強くなったり、逆に弱くなったりすることがあります

ゾスパタ[®]の他にお薬(薬局で購入したお薬、サプリメントなどを含む)を服用している場合

白血病の担当医師や薬剤師に相談してください

白血病以外で受診するとき、薬局でお薬(サプリメントなどを含む)を購入する場合

医師や薬剤師にゾスパタ[®]服用中であることを伝えてください

セイヨウオトギリソウ (St. John's Wort) を含有する食品

ゾスパタ[®]の作用が弱まることがありますので、控えてください

授乳

- ゾスパタ[®]の成分が乳汁中に移行する可能性があるため、授乳しないことが望ましいとされています

避妊

- 胎児に悪影響を与える可能性があるため、妊娠する可能性のある女性は、適切な避妊法について担当医師から説明を受け、ゾスパタ[®]治療中および治療終了後6ヵ月間は避妊してください。男性は、ゾスパタ[®]治療中および治療終了後4ヵ月間はバリア法(コンドーム)を用いて避妊してください。

あらわれやすい副作用

これらの症状は適切な予防や治療を行うことで、症状を出なくしたり、改善することができます。このような場合は、担当医師、薬剤師、看護師に相談してください

肝機能の異常

- 疲れやすい
- 体がだるい

出血

- 鼻血
- 歯ぐきの出血

貧血

- 体がだるい
- めまい

発熱

- 突然の高熱
- 寒気

下痢

吐き気

注意が必要な副作用

まれに、下記のような症状があらわれる場合があります。このような場合は、すぐに担当医師、薬剤師、看護師に相談してください

骨髄抑制

- 鼻血
- 体がだるい
- 突然の高熱



感染症

- 発熱
- 寒気
- 咳



出血(脳出血、硬膜下血腫など)

- 突然の意識の低下
- 頭痛
- 片側のまひ



QT間隔延長

- めまい
- 動悸
- 気を失う



心膜炎、心不全、心嚢液貯留

- 息苦しい
- 息切れ
- むくみ



消化管穿孔

- 吐き気
- 嘔吐
- 激しい腹痛



肝機能障害

- 疲れやすい
- 体がだるい
- 力が入らない



腎障害

- 尿量が減る
- むくみ
- 体がだるい

間質性肺疾患

- 咳
- 息切れ
- 息苦しい



過敏症

- 汗をかく
- じんま疹
- ふらつき



可逆性後白質脳症症候群

- 頭痛
- 意識の低下
- けいれん



